

<熊本地震1年>家庭防災 教訓生かせ



地震に備えた家具の固定について説明する横島さん(県立防災センターで)

◇68歳防災士、家具の固定化説明

熊本地震から1年となる14日、家具の転倒防止方法を伝える講習会が県立防災センター(北島町)で開かれ、阿波市阿波町の防災士横島寛さん(68)が講師を務めた。過去の地震で家具の転倒や下敷きで命が奪われる被害が相次いでいる。横島さんは「熊本の教訓を家庭での防災に生かして」と呼びかけた。(河合修平)

大阪府の小学校教頭だった横島さんは2006年に退職後、地元の阿波市に戻った。自主防災活動に近所の付き合い程度で参加していたが、11年の東日本大震災をきっかけに、「もっと地域の防災の役に立ちたい」と思うようになり、防災士の資格を取得した。

県の防災講習や防災イベントにも積極的に参加。同センターから定期的に講師を頼まれるようになった。

この日の講習会で横島さんは、家具の転倒を防ぐため、タンスや棚を壁に固定するL型金具の取り付け方などを説明。「高い所に物を置かないでほしい」と強調した。

1995年の阪神大震災で、大阪の勤務先の小学校近くにあった火葬場に次々と運び込まれる遺体を目撃したことが今も記憶に残る。

横島さんは「自分の命を守るために何をすべきかをできるだけ多くの人に伝えたい」と語る。

横島さんの講習を受けた徳島市山城町の無職炭谷勲さん(75)は「家具を固定する器具の効果が高いことがよくわかった。早速購入したい」と話していた。

県立防災センターでは15、16日にも別の講師が家具固定について説明するほか、災害時の応急手当の講習会もある。また、熊本地震による家屋の倒壊や土砂災害を伝えるパネル展が、5月7日まで開かれている。